

横浜アクションアワード



地域の未来を創る活動は、
「あなたの力」で飛躍する！

横浜アクションアワード2024
実施報告書



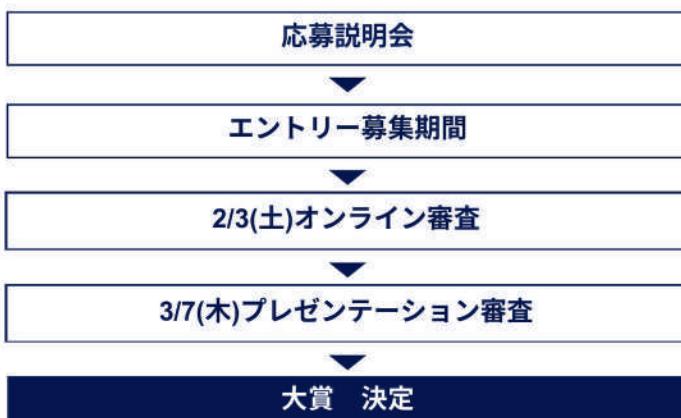
横浜アクションアワードとは

横浜アクションアワードは、若者と地域のNPOや団体がパートナーシップを組んで活動している事例を多くの方に知ってもらい、広げていくためのアワードです。そのため一方的に活動を評価する賞ではなく、活動を応援する場、つながりを広げる場としての仕組みをいくつも設けています。

発信する	つながる	未来へつなぐ
学生と地域の連携による活動の魅力や意識、そして課題を発信していきます。	参加団体同士、団体と参加者、いろんな人がつながり合う場を運営します。	この場での出会いが活動を次のステージへ、未来へとバトンをつないで行きます。

例えば審査員は企業や行政、NPO、高校生等の多様なまちのプレイヤーが参加しており、二次審査当日は一般参加者も審査に参加できるなど、参加団体と交流・寄付することで応援できる仕組みも設けています。さらに受賞団体には、活動に役立つプライスレスな支援を「サポートメニュー」として提供するなど、団体の活動支援の輪を広げ、持続可能な若者×地域の活動事例が増えていくことを期待しています。

1年間の流れ & 応募資格



【応募資格】

- ・横浜市及び近隣の活動であること
- ・30歳以下の若者グループ・個人であること
- ・若者と地域コミュニティの連携事例であること
- ・地域活性化や社会性の高い活動であること
- ・2023年度に実施している活動、
および2024年度に実施予定の活動

今年度のエントリー団体一覧

**あおばコミュニティ・テラス
(Youth Wave)**

**×
下市ヶ尾町内会**

あおばコミュニティテラスのコーディネーター
経由で、下市ヶ尾町内会の方とウォーキングマッ
プの動画作成に至った。

**NPO 法人まち × 学生
プロジェクト plus**

**×
六角橋自治連合会**

『世代を超えて想いをつなぐ「まち」づくり』
をテーマに若者と地域のコラボを生み出す
活動を実施。

**神奈川大学体育会サッカー部
×
NPO 法人 KUSC**

竹山団地を舞台にサッカー部の学生が団地に住
み、地域活性化につながる活動を行っている。

FP TEENS

**×
一般社団法人
横浜西口エリアマネジメント**

横浜駅西口エリアのまちの活性化と魅力追求に
10代の目線で取り組む高校生チーム。

**しんばレスマホ推進委員会
×
横浜市新橋地域ケアプラザ**

同じ地域に住む中学生、高校生、大学生及び社会人による「スマートフォンを教えるボランティア活動」。

審査基準について

ビジョン性	活動を通じて目指したい社会像があるか
継続性	継続可能な活動計画、運営体制か
チャレンジ性	活動に新たなチャレンジがあるか
パートナーシップ性	参加者同士、若者と地域で良い関係性が築けているか
波及性	活動が単発で終わるものではなく、地域に波及していくものか
独創性（若者らしさ）	若者ならではの活動、独創性などがあるか

賞及び副賞

大賞	二次審査+(会場参加者)の審査で最も得点の高かった団体 副賞：賞金1万円+APYが伴走支援+サポートメニュー
準大賞	二次審査+(会場参加者)の審査で大賞の次に得点の高かった団体 副賞：クオカード+サポートメニュー
審査員特別賞	大賞、準大賞以外で審査員が賞を贈呈したいと思った団体 副賞：審査員による特別サポートメニュー

結果発表

どの団体のプレゼンも素晴らしく、全ての団体へ賞が贈られる結果となりました。審査員の方々のお仕事や人脈を生かし、今後様々な形で地域で活動する若者を後押しをしていきます。出場団体の皆様の今後の活動から目が離せません。

大賞

神奈川大学体育会サッカー部 × NPO法人KUSC



副賞：賞金1万円
アクションポートによる活動支援
石井造園CSR報告会にて賞金贈呈

【発表概要】

神奈川大学サッカー部の学生が団地で寮生活を送りながら、色々な活動を行っています。横浜市緑区にある竹山団地は高齢者の割合が40%を超え、空室の増加が課題となっていた団地を活性化しようと、3年前に神奈川大学と県住宅供給公社が協定を結びました。目的としては、アスリートの育成と地域の活性化。フットボール以外にも地域活動やボランティア活動を大切にしようという「f+1」の伝統があり、学生が軸となって防災訓練、地域行事の参加、スマート教室、清掃活動、神大喫茶介護予防教室の運営を行っています。身体活動量の低下、社会的孤立、団地の魅力低下などの課題にアプローチし団地に活気を戻すなど良い変化が生まれています。学生自身も人間としての成長を感じている人が多く、本業のサッカーでも2部昇格が決まるなど双方にメリットがあるプロジェクトだといえます。



(審査員：小正和彦氏)

学生が自分たちのためだけでなく、同時に日本中に
ある社会課題の解決に寄与することができている、
とても素晴らしい活動だったと思います。

準大賞

NPO法人まち×学生プロジェクトplus × 六角橋自治連合会



副賞：クオカード
アクションポートによる活動支援

【発表概要】

まちと学生が青春を注いだ「キャンドルナイト」。誰でも参加できる、冬に再開しよう、をコンセプトに、まちと、学生と、両者を結ぶ学生コーディネーターでイベントを行っています。ワークショップを10か所、計28回も開催するなど、いろいろな世代の方が参加しやすい仕組みを作っていて、学生と地域の方混合の5つの班に分かれ、モニュメント作成やSNS、パンフレットでの広報を実施しています。すごいところは沢山ありますが、何より自慢したいのが、まちと学生の関係性。一方だけが頑張るのではなく、一緒に創り上げていく、一緒に全力を出し尽くすところがまちかけの素晴らしいところです。キャンドルナイト以外にも沢山の活動を行っています。

(審査員：荒木田百合氏)

まちと学生を繋ぐという皆さんのおIGINALの仕組みは、非常にうまく機能していて、後から続く団体がお手本にしているんだと思いました。



しんばしスマホ推進委員会
×
横浜市新橋地域ケアプラザ

【発表概要】

同じ地域に住む学生と高齢者がつながる場になること、高齢者のデジタルデバイド解消によるQOLの向上を目的とし、高齢化の進む泉区でスマホ教室を開催しています。新型コロナウイルスで他者との交流が減ってしまった高齢者と、授業がオンライン化し同じく他者と関わる機会が減ってしまった若者のニーズがお互いにマッチし始まりました。教室では、高齢者が使えると生活が豊かになるアプリを題材にしレクチャーしており、参加者のリピート率も半数を超えるなど好評を得ています。また教室後はお茶を飲みながらの雑談タイムを設けており幅広い年齢層の双方向の会話を重視しています。最終的には地域包括ケアシステム構築の一助となればと考えています。



副賞：関東学院六浦高校の
総合学習の授業にて登壇

あおばコミュニティ・テラス (Youth Wave)
×
下市ヶ尾町内会

【発表概要】

「若者の力で地域を笑顔に！」ウォーキングマップ作製の相談に来た町内会長さんに、当時ギャルだった学生が「動画で作ったらしいんじゃないですか。」と提案したことから始まった動画作成企画。アピールポイントは町内会の課題解決に向けての施策を学生が行っていること、70歳以上の町内会にSNSを導入できること、町内会に若者が直接かかわる重要性を知ることができたことの3点です。これからもっと世の中の中心ともいえるデジタルを地域に導入して若者が入りやすいようにしていきたいです。



副賞：審査員と直接ご相談券

FP TEENS
×
一般社団法人横浜西口エリアマネジメント

【発表概要】

横浜駅西口エリアを拠点として、「ニシグチを楽しむ、楽しんでもらう」をモットーに私たちは日頃より活動しています。高校生の視点だからこそ発見できる西口の課題改善や新たな魅力の発信に取り組み、高校生でも過ごしやすい西口を目指して、西口のリサーチやイベントの企画、情報発信など様々な活動をしています。活動のポイントは公共空間活用、若者同士のネットワーク、高校生の表現の場の3点です。2023年最も力を入れたのは「まちの合同学園祭=TEENS PARTY」です。開催前のワークショップでは多くの方にご参加頂き、当日は1000以上の来街者にご参加頂きまちの人々に楽しんでもらうイベントを開催することができました。



副賞：アクションポート横浜による活動支援

一次オンライン審査

開催日時：2月3日(土)14:00-16:30

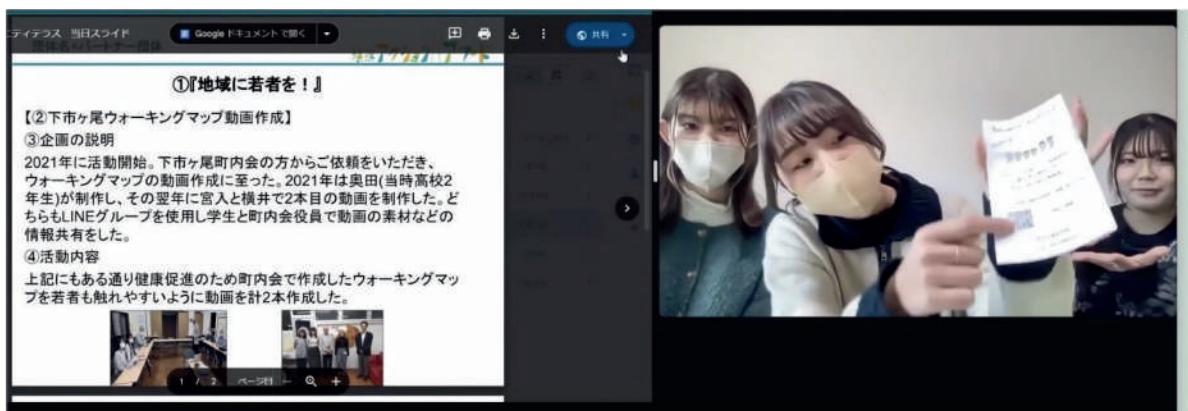
会場：オンライン

プログラム

- 14:00～ プレゼンテーション審査
- 15:00～ ブラッシュアップ交流会
- 15:40～ コメントタイム
- 16:00～ 交流タイム



オンライン審査では活動の狙いとその背景、団体の強み・今後の展望等を発表してもらいました。発表後には審査員1名と1団体とでグループとなり個別にアドバイスや親身なコメントを頂くブラッシュアップの時間を設定。それぞれ2次審査に向けて、アドバイスや親身なコメントを頂いたり、作戦を立てたりと良い時間になりました。



▲ プrezentationの様子

審査員&ファシリテーターの皆さん

審査員には、企業や行政、NPOなどをはじめ、多様な活動をしている皆さんに、ファシリテーターには学生時代に横浜で活動していたアクションポートの卒業生に参加いただきました。

審査員	地域	神奈川県共同募金会 中島 孝夫様	卒業生	勝尾 桃花氏
	企業	mm地区にある企業・野庭団地 丸山 耕輔様		細野 瑞希氏
	公共	横浜市社会福祉協議会 黒川 友希子様		山岡 博樹氏
	NPO	札幌市市民活動サポートセンター 國行 彩斗様		平野 孝典氏
	卒業生	地球環境基金 永井 亮様		長浜 宏海氏

横浜アクションマップ

開催5回目となり、多くの人や団体と関わる中で、新型コロナウイルスの影響や社会の変化に合わせて、若者の地域活動の在り方にも変化が生じていることに気づきました。そこで、私たちは若者の活動を見える化し、共に活動しやすい土壌を地域につくるため「アクションマップ」の制作・発行を決定しました。

横浜市内の若者団体(38団体) や地域で若者と一緒に活動している行政の取り組み、学生視点でのまとめや、地域で活躍する皆様からのメッセージなどを1冊にまとめた冊子になっています。横浜市内の公共施設や大学のボランティアセンターなどに順次配架しております。



アート2020、2024年!
NPO法人 まち×学生プロジェクトplus

横浜づくり ×神奈川区
「世代を超えて想いをつなぐ『まち』づくり」をテーマに、若者と地域の連携を育み出すための活動を行っている。主に、認知啓発活動のプロジェクトを通じて、地域で活動できる機会のイベントを開催。また、若者の意見を継承する「まちづくりアドバイザリーミーティング」や、学生会議が毎月開催される「カーネガーミーティング」など、若者たちも運営する活動が実施されている。

アート2024年!
神奈川大学体育会サッカー部

横浜の山陽地区を舞台として、サッカー部の学生が地元に活動、地域活性化につなげるコミュニケーション活動、介護や障害者、スマートシティなどと連携し、地域貢献と文化交流を行っている。多世代交流を通じて地元の方々に喜びとともに、自分たちの活動に対する高い熱意を感じながら、地域貢献に取り組んでいる。

▼こちらからダウンロードできます



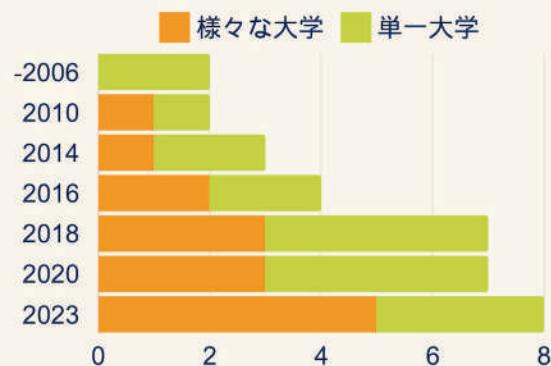
作成を通じて分かったこと

今回12団体にヒアリング、38団体に情報を頂きました。そこで、横浜アクションマップに掲載している統計を一部ですがご紹介します。

1) 設立年度と構成員の統計から

「様々な大学」の学生で構成された団体が増えている

今回登録の38団体を見ると、2020年以降に設立された団体が40%近くを占めている。さらにその内訳をみてみると、「地域」や「やりたいこと」で集まった様々な大学の学生で構成された団体が増加していることがわかる。



2) 活動上の課題は「広報・発信」が最多

今回登録の38団体を見ると、一番の悩みは広報・発信の課題であった。次に多い課題はメンバー募集の課題であり、若者であるからといって発信が得意で簡単に仲間が集まるというわけではないことが分かる。



二次審査公開プレゼンテーション

開催日時：3月7日（木）13:00~17:00
会場：横浜市役所1階アトリウム
参加者：約130名

プログラム

- 13:00- プrezentation審査
- 15:00- 見本市交流会
- 16:00- 審査結果発表
- 17:00- 交流会



① プrezentation審査

1団体7分でプレゼンテーションを行い、その後審査員からの質疑応答を得て審査となります。

当日は横浜で活動している若者とパートナー団体の両者に参加いただき、取り組みを発表していただきました。

パートナー団体と掛け合いをしたり、ビデオメッセージを流すなど工夫を凝らしたプレゼンが披露されました。

今年は高校生の参加や、若者団体とパートナー団体をつなげたコーディネーターの方のご参加が増えるなど、若者の地域活動の在り方に変化を感じます。



アワードに出場していただいた皆さんにお話を伺いました。アワードが自分たちの団体の活動を振り返り、今後の活動に繋がる機会となれば幸いです。



アワードに出場し、自分たちの活動に自信を持つことができました。これまで、地域に住みながら活性化を目指す我々の活動は疑心暗鬼で進めてきました。しかし、多くの人に応援してもらえる活動だと知りこの活動を行うことに誇りを持つことができました。また、同じような志を持つ仲間と出会えた事はとてもいい経験になりました。

アクションアワードに参加して、まちかけの1番の強みである「まちとの仲の良さ」をお見せすることができて良かったです！！また、他団体と繋がることができたので、今後の可能性が広がり、とても良い機会でした。今後も、若者とまちのつながりをたくさん作り、横浜で1番の団体を目指します！！



② 過去受賞団体プレゼン



休憩時間には、昨年度関わっていただいた3団体にプレゼンをして頂きました。1つ目は、昨年度優勝団体「横浜市立大学ボランティア団体one by ONE」さん。世代交代をされてレベルアップした今年度の活動をご報告して頂きました。2つ目は昨年度準優勝団体「保土ヶ谷盛り上げ隊」の皆さん。コロナ禍初となる宿場まつりの開催についてお話をいただきました。3つ目は昨年度審査員を務めてくださった洋光台地域ケアプラザの皆さんからシェアキッチンのご紹介。大人な皆さんから学生への呼びかけは5年間で初めてのことでした。

③ 若者団体見本市

審査をしている間には、アトリウムにて今回の出場団体や「横浜アクションマップ」掲載団体のみなさまにお集まり頂き、若者団体見本市を開催しました。それぞれの団体にブース出展をして頂き、自由に回って頂いて交流できる場です。途中カメラとマイクで実況中継を行いながら、各団体にPRをして頂きました。

〈参加団体〉

CanVas / 学生団体YUZU / 下町編集室OKASHI / ほどがや市民活動センターアワーズ学生チーム / 保土ヶ谷盛り上げ隊（KIKCAFE学生部） / NPO法人MIKs / 横浜市立大学ボランティア団体one by ONE



④ 交流会

アワード終了後、協働推進センターにて交流会を実施しました。任意の参加ではあったものの、審査員の方々、そして団体を超えた若者の交流もたくさん見受けられました。発表と審査を終えて緊張もほぐれた様子から「今後」の活動についての話や、自団体の話、などリラックスした雰囲気で交流を行いました。



二次審査員の皆さまより



小正 和彦氏（横浜市立みなとみらい本町小学校 校長）

皆さんの活動はまさにモデルケースです。皆さんがこれから社会を作っていく本当にメインの主体であるというのを今日も改めて感じましたし、まだまだこれからさらにこの社会、国は良くなっていくんだろうなとつくづく思いました。



荒木田 百合氏（横浜市社会福祉協議会 会長）

本当に楽しいわくわくするようなプレゼンテーションでした。生まれ育った町と同じように、「学生生活を過ごしたまちの人と一緒につくり上げたその『町』」が間違いなく皆さんのホームタウンになったんだろうな、と思います。



吉備 力ヨ氏（株式会社ジョビア 代表取締役社長）

常に率先して課題が何であるか、いかにその課題に果敢に向かっていくことができるのかという、活動を通じて得た学びを社会人になっても実践して頂きたいと思います。横浜全体、神奈川全体、日本全体にその活動の普及をして頂けたら幸いでございます。



金子 利恵氏（横浜市市民局市民協働推進課長）

持続可能な社会の実現には地域の皆さんの活動はますます重要になってきますし、そこには若い力がとても大切だと思っています。市民活動を始め横浜の市民の皆さんのが大きく、心強いと改めて感じました。



稲田 遼太氏（NPOのための弁護士ネットワーク）

どの団体も面白く、審査が難しかったです。どういうところで評価するのか、面白がるのか、という点は人によって違うと思うのですが、そういう意味で自分の価値観に向き合えた時間でした。皆さん出場されたこと自体が素晴らしいことだと思います。



跡部 遼氏（株式会社タウンニュース社神奈川区編集室）

皆さんの活動は地域の人に入からすると本当に有難いことです。今まで以上に積極的に活動していただきたいですし、これから皆さんに行くエリアにいる同じように頑張りたいと思っている学生たちと一緒に応援していく立場としても活躍してもらえたならと思います。



丸山 慶人氏・宮本 雄大氏（関東学院六浦高校の生徒）

高校生として刺激が多いもので、学校に持ち帰って生徒のみんなに広めていけたらなと思います。高校生のうちでもこういう活動ができるんだ、大学生になるこういう活動もできるんだと学びを深めることができました。

広報記録

- 2月12日 みなとみらい線ホームドアサイネージに掲載
2月13日 Circular Yokohamaに掲載
2月29日 旭区版タウンニュース掲載
3月14日 神奈川区版タウンニュース掲載
3月21日 緑区版タウンニュース掲載
4月25日 神奈川区版タウンニュース掲載



運営体制

たくさんの皆さんにサポートいただき、アワードが運営できました。ご協力ありがとうございました！

- 主催：NPO法人アクションポート横浜
- 後援：社会福祉法人神奈川県共同募金会、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会、横浜市市民局
- 助成：一般財団法人 YS市庭コミュニティー財団
- 協賛：社会福祉法人神奈川県共同募金会
- 協力：横浜高速鉄道株式会社、審査員の皆様、アクションポート卒業生の皆様



ご支援いただいた皆様

横浜アクションアワード/横浜アクションマップにご寄付いただいた皆様

学校法人希望ヶ丘学園様、武松事業デザイン工房株式会社様、横浜旭口ータリークラブ様
跡部遼様、岩永さち子様、北薗航平様、吉備力ヨ様、坂口緑様、平野孝典様

運営体制



伊澤玲奈	神奈川大学4年
伊藤わかかな	早稲田大学2年
佐藤絢音	東京家政学院大学2年
鈴木文乃	フェリス女学院大学1年
鎌野真美	法政大学4年
阿部杏里	横浜商科大学4年
阪本絢音	中央大学1年
高城芳之	アクションポート横浜

エントリー、見本市、昨年度出場と、色々な形で参加してくださった若者団体の皆さんによる「こんなことしてます！」の熱意を聞けることや、活動を心から楽しんで、その場所に「ハマっている」人たちが集まることで刺激を与え合うことのできる最高の時間だったと思います。
同じ「地域活動」の中でこんなに多様で、だからこそ共感できること、学び合う価値を感じました。



伊澤玲奈



伊藤わかかな

沢山の活動・想いを知って、大好きな横浜がもっともっと大好きになった時間でした。関わって頂いたすべての方に本当に感謝しています。若者の地域活動が自然な選択肢になるように、認知度を高めて仲間がもっともっと増えていけば良いな、「つながる」といつもの活動がもっともっと広がるな楽しくなるなど改めて思いました。仲間とともに答えのない問い合わせに向き合い続けられた貴重な経験でした。



佐藤絢音

アワードを通じて、さまざまな経験を積み、学ぶことができました。年齢や通っている大学が異なるメンバーで運営していたため、開催までに苦労する場面も少なくありませんでした。それでも、何度も話し合いながらお互いの意見を尊重し、私たちにしかできないアワードを開催できたと感じています。また、多くの人々の支えがあったからこそ、開催することができたと思っています。
アワードに関わってくれた皆さん、本当にありがとうございました。

発行：2024年5月 NPO法人アクションポート横浜



〒231-0023 横浜市中区山下町94番地 横浜中華街パーキング協同組合内

TEL:045-662-4395

URL:<https://actionport-yokohama.org/>

アクションポート横浜

検索